

広報 Koho Gallery
展示室

第47回

「^{つくりよう}尽両めん合^{あわせ}」は、猫の表から見た姿とその反対側の姿が描かれていて、二匹を組み合わせる遊びになっています。

さあ、それではやってみましょう。紛らわしいひっかけもありますので気をつけてください！

右上の毛繕いをする三毛猫は左上の後ろ向きの三毛猫と対になっています。赤い玉にじゃれている仔猫は近くで赤い鞠をつく仔猫を後ろから見たところ。左側の黒い「くまねこ」は右側の「大ねこ」の相方で、右の一番下の「きじねこ」は左端の正面を向いている「とらねこ」と一致します。全部で17匹の猫になりますが、全てわかりましたか。

さまざまなポーズの猫が描かれ、「おどるねこ」、「じゃれねこ」、「ねおきのあくび」、「よわいませねこ」、「ぎょ（う）ぎのわるいねこ」など添え書きされていますが、それぞれ特徴がよく捉えられていて、なるほど、と思わされます。下段の子猫と向かい合っているのは「子をあやすねこ」。ほほえましいですね。猫の好物の鯉節や鮑も描かれています。

赤い首ひもを付けているのは飼い猫です。この「首玉」または「首たが」と呼ばれる首輪は布を輪にしたものですが、贅沢品である緋縮緬や錦緬もしばしば用いられました。金の鈴や小判を付けているものもいます。

この作品を作った歌川芳藤（文政11年（1828）～明治20年（1887））はおもちゃとして遊べる浮世絵を得意とし、「おもちゃよし藤」と呼ばれて親しまれました。独創的なアイデアに富むおもちゃ絵を数多く考案しましたが、事前に模型を作って確かめるなどして、決して手を抜くことがなかったといえます。

三毛猫、黒猫、キジ猫、虎猫。似ている猫もたくさんいます。この「しん板猫^{ばんねこ}」

－ 企画展 －

浮世絵に描かれた動物たち展

－ 珍獣・猛獣・いやしのペットー

「浮世絵に描かれた動物たち展－珍獣・猛獣・いやしのペットー」では、このような動物の楽しいおもちゃ絵をたくさん展示しています。また、小林清親が



「しん板猫尽両めん合」 歌川芳藤（個人蔵）

描いた迫力のあるライオンの屏風絵や、長澤蘆雪^{ながさわろせつ}の名品「花鳥蟲獣図巻」、金の鯨の浮世絵など、盛りだくさんの内容になっています。猫好き、動物好きはもちろん、大人から子供まで誰でも楽しめる展覧会ですので、夏休みはぜひ美術館に足をお運びください。

馬頭広重美術館 学芸員 長井裕子

【会 期】 8月6日(木)～9月13日(日)

【ミュージアムトーク（展示解説）】

8月8日(土) 午後1時30分～当館学芸員

【休 館 日】 8月10日、17日、24日、31日、9月7日

【お盆の無料開放】

8月15日(土)は観覧料が無料になります。

【問い合わせ】 那珂川町馬頭広重美術館

☎0287-92-1199

ミニギャラリー
作品募集！

あなたの作品をここに出品してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問合せ：企画財政課

☎0287-92-1114

ばとう道の駅写真コンテスト作品
入選「馬頭の花火」
大野和之さん（那須烏山市）



ミニ
ギャラリー



本棒隆雄さん宅（恩田）の
「ゆりの群生」